

カツオ 東部太平洋

Skipjack *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・30 kg
- 寿命：6 歳以上
- 性成熟年齢：1 歳から始まる
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類等

利用・用途

缶詰原料等

漁業の特徴

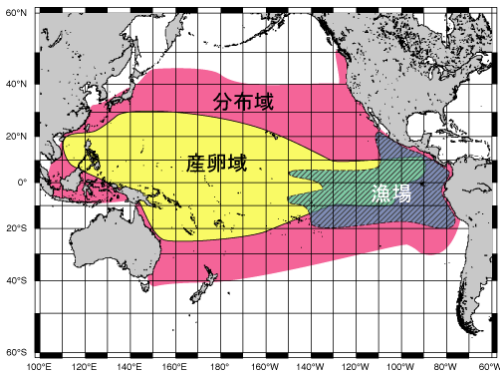
現在の漁獲はほとんどがまき網による。まき網では、集魚装置 (FAD) を用いる操業と素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から北部南米沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、コロンビア、米国等が主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄によるわずかな量のみである。

漁獲の動向

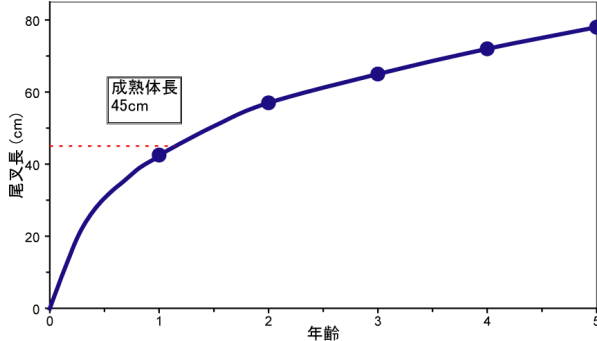
1950 年代までは竿釣りを主として約 5 万トンの漁獲であったが、1960 年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990 年代から漁獲量は増加傾向にある。近年の総漁獲量は 29 万～35 万トンを維持している。2021 年は約 32.5 万トンであった。

資源状態

2022 年 5 月に IATTC 事務局によって暫定的な資源評価が統合モデル (Stock Synthesis : SS) を初めて用いて実施された。暫定的としたのは、データや設定に改良を加える作業が引き続き進行中であるためだが、今回の評価結果は管理勧告のための情報として信頼に値すると IATTC 事務局より強調された。現在のバイオマスは目標管理基準値を上回り、漁獲圧も目標とする漁獲死亡率を下回る結果となったことから、本資源は過剰漁獲に陥っておらず、乱獲状態でも無いと判断された。



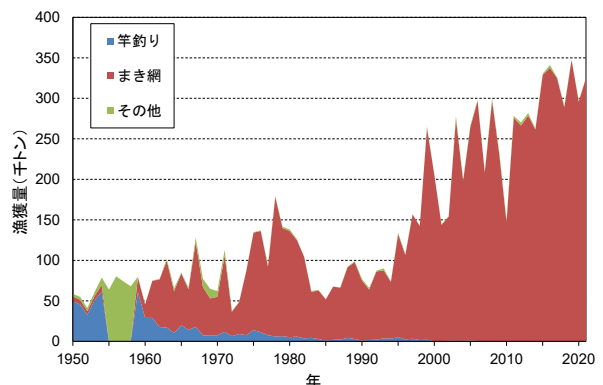
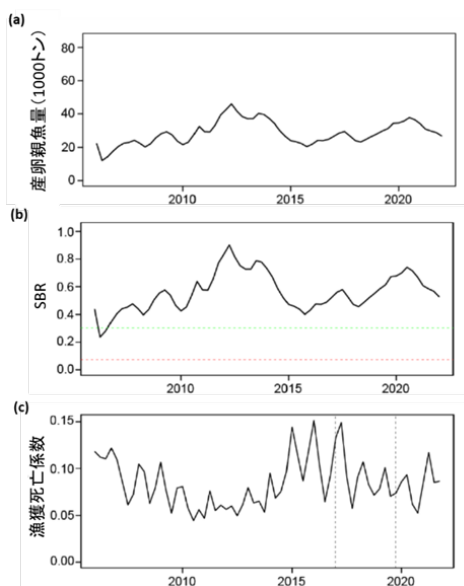
太平洋におけるカツオの分布と東部太平洋の漁場



東部太平洋におけるカツオの成長曲線

管理方策	
<p>本種を対象とする保存管理措置は IATTC において導入されておらず、メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対する 72 日間の全面禁漁（ただし、メバチの漁獲量に応じて禁漁期間を延長）、②沖合特定区での 1 か月間の禁漁、③FAD の使用数制限、等の措置が導入されており、結果的に本種に対する漁獲努力量は制限されている。</p> <p>本種を含む、マグロ・カツオ類に対して、2016 年の IATTC 第 90 回年次会合において、以下の漁獲管理ルールが合意されている。</p> <p>①最も厳しい管理を必要とする魚種については、まき網漁業に対する措置を複数年固定できるようにし、漁獲死亡率を、最大持続生産量（MSY）を達成する水準以上としないよう維持する。</p> <p>②漁獲死亡率が限界管理基準値（親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の 50%に減少する状態における産卵親魚量を維持する漁獲死亡率）を超過する確率が 10%以上となる場合、50%の確率で MSY を達成する水準以下となるまで削減し、かつ限界管理基準値を超過する確率を 10%以下とする措置を可能な限り早期に実施する。</p> <p>③産卵親魚量が限界管理基準値（親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の 50%に減少する状態における産卵親魚量）を下回る確率が 10%以上となる場合、50%以上の確率で目標水準（MSY を達成する水準の産卵親魚量）まで回復させ、かつ限界管理基準値を下回る確率を 10%以下とする措置を 2 世代以内または 5 年以内のうちより長い期間中に実施する。</p> <p>④まき網漁業以外の漁業に関する追加規制を IATTC 事務局職員が勧告する際には、対象資源に与える相対的な影響も踏まえ、まき網漁業で採択された措置と可能な限り一貫性を持たせる。</p>	

カツオ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 （最近 5 年間）	29.0 万～34.8 万トン 最近（2021）年：32.5 万トン 平均：32.0 万トン（2017～2021 年）
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	18～33 トン 最近（2021）年：20 トン 平均：24.2 トン（2017～2021 年）
管理目標	検討中
資源評価の方法	SS
資源の状態	産卵親魚量は漁業がないと仮定した場合の約 56%と高く、漁獲死亡係数についても増加傾向は認められない
管理措置	特定の措置はなし（メバチ・キハダの保存管理措置として、以下の措置がまき網漁業に対し導入されている（2022 年～2024 年に適用）） ①72 日間の全面禁漁（ただし、メバチの漁獲量に応じて禁漁期間を延長） ②沖合特定区での 1 か月の禁漁 ③集魚装置（FAD）の使用数制限（2022 年から 2024 年にかけて段階的に削減）
最新の資源評価年	2022 年（暫定）
次回の資源評価年	2024 年



東部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲量（1950～2021 年）

産卵親魚量 (a)、Spawning Biomass ratio（漁業がない状態の産卵親魚量を 1 としたときの産卵親魚量の比、b）、漁獲死亡係数 (c) の推移

(b) の緑と赤の点線はそれぞれ目標管理基準値 (SBR = 0.3) と限界管理基準値 (SBR = 0.077) を示す。